

2022年度 委員会事業報告書

60周年特別会議 特別議長 加藤昌之

1. 委員会開催日 (13回)

1 / 11	1 / 31	2 / 7	2 / 22	3 / 9	3 / 14
4 / 27	5 / 30	6 / 30	7 / 29	8 / 29	9 / 27
10 / 26	11 / 19	12 / 9			

2. 事業報告

(1) 60周年式典(4月例会)の担当	4月 3日
(2) 一般社団法人海部津島青年会議所2020年代運動方針策定の担当	4月 3日
(3) 創立60周年記念誌の作成並びに刊行の担当	4月 3日
(4) 行政・マスメディアJC交流会	6月 1日
(5) 新入会員の拡大	通年
(6) 新入会員の育成	通年

3. 委員会メンバー

加藤昌之 浅井英昭 吉岡和也

4. 反省点及び申し送り事項

当会議体は、海部津島青年会議所が創立60周年を迎えるにあたり、今まで支えていただいた方への敬意と感謝を示し新たなスタートを切るとともに、10年先の未来を見据えた、海部津島青年会議所が目指すべき新たな行先を見出す必要があると考え活動をしてまいりました。

創立60周年記念式典では、全てのメンバーの多大なるご協力があり、海部津島青年会議所のこれまでの活動にご支援とご協力をいただいた全ての方々、海部津島青年会議所の歴史を紡いでこられた先輩諸氏に敬意と感謝を確実に伝えられたと考えます。また、メンバーが式典準備の期間、記念誌の刊行をとおして、海部津島地域の発展に大きく寄与してきた歴史の長さ、運動発信に込められた先輩諸氏の想いに触れることで、60年受け継がれてきた歴史と伝統に誇りをもつことができたと考えます。そして、その歴史の上に現在の海部津島青年会議所があり我々が活動できているという実感につながったと考えます。

さらに、式典の中で新しい活動の指針である2020年代運動方針を表明させていただきました。予定者期間からメンバーの意見や想いを集約し策定した新しい運動方針を、多くの方々が集まる記念式典の場で力強く表明することで、次の10年に向けた活動の第一歩を全員で踏み出すことができたと考えます。

以上のことから海部津島青年会議所として活動できていることの有り難さを認識し、次代に向けた運動発信の一步を力強く踏み出させたことで、海部津島青年会議所が今後も地域発展の要となったと確信します。

上記のとおり、創立60周年記念式典を無事に挙行できたこと自体は、年間の目的達成に大きく寄与していることは間違いありません。しかしながら、そこに至るまでの会議体の動きとしては反省すべき点が多々あったと考えます。

特に2020年代運動方針の策定のあり方についてです。運動方針を創り上げていく方法について、ある程度かたちにした運動方針に対して公開会議でメンバーに説明し、意見を吸い上げ、それを基に修正を重ね完成させていく方針を取らせていただきました。これは、公開会議等での話し合いで意見を一から出し合っ

て創り上げていくよりも、会議体としての運動方針をまずは皆に示すことが、意見をまとめていくうえでメンバーの時間を無駄にせず効率的ではないかと思ひ至り、限られた時間でより良いものを創り上げるためには最善だと判断したからです。しかし、予定者期間に行った1回目の公開会議にて会議体としての策定した運動方針の案を説明させていただきましたが、メンバーの意見は様々で、会議体としての考えも揺らぐこととなり、結果として会議体で策定した運動方針を白紙にし、メンバーの意見を一から収集する機会を設けることとなりました。

その後、何とか軌道修正し、2月の理事会にて審議可決いただくために策定をしまいましたが、なかなか運動方針が定まらず、臨時の公開会議を開くなどメンバーの貴重な時間を予定以上に使ってしまいました。結果として3月まで審議可決が遅れてしまったことを深く反省いたします。

運動方針の策定にあたっては、まず時代背景や地域の問題、理想とする地域像など方針の根幹となる情報を全メンバーで話し合い、それぞれの情報の集約やメンバーの想いや認識の統一を図っていくことが必要ではないかと感じました。その上で、集約した情報やメンバーの想いを分析するためのメンバーを会議体以外からも数名加え運動方針として練り上げていければ、必要以上の時間を使うことなく運動方針を策定できたと考えます。

さらに、1月から4月までは、運動方針の策定と同時に、記念式典の議案作成及び準備、記念誌の編集と刊行と、重要なタスクが重なり非常に厳しい期間となりました。そのような状況の中、委員会の垣根を超え、多くのメンバーにご協力をいただくことで無事に実施することができました。しかし、厳しい状況になってから協力の依頼をし、他の委員会を混乱させてしまったことは反省するべき点であると思ひます。会議体のメンバーが少ないのであれば、早々に役割を分担し余裕をもって取り組めるようにすることを申し送りさせていただきます。

5. 委員長所見

まずは、創立60周年記念式典に携わる重要な使命を命じられたときは、果たして自分にこの大役が務まるかどうか、非常に不安な気持ちが大きかったことを今でも鮮明に記憶しています。しかし、卒業年度だからこそ、今までの経験を活かし、これからの海部津島青年会議所のため次の10年に向けた運動発信の要を気付くことが自分に与えられた最後の使命だと確信し、海部津島青年会議所が次の10年に向けた運動発信のスタートを迷うことなく切ることが、今後の地域発展のために必ず必要となると確信し活動をしてまいりました。

当会議体の主たる担いの一つである、海部津島青年会議所の今後10年の運動の軸となる運動方針の策定をするにあたり、予定者期間から数回の公開会議を重ねながら策定を進めて参りました。結果としてはメンバーの総意のもと、今後10年の運動方針の軸として相応しいものを創り上げることができたと思ひます。また、策定の過程で、今後の世の中はどうなっていくのかということ調べるにあたり、自分自身、知らなかった多くのことを学ぶ機会にもなり、改めて、役職に向き合うことで成長できるという青年会議所の醍醐味を強く再認識させていただきました。

また、60周年記念式典を開催するにあたり、過去の事業や例会の記録や資料を調べていくなかで、先輩諸氏の弛まぬ研鑽によって、海部津島青年会議所が存続してきたという重みを強く実感し、現在海部津島青年会議所の一人として活動できている有り難さを、私自身が強烈に感じる事ができました。

しかしながら、振り返ってみると、反省すべきことが多くあったと実感しています。なぜ、最初に多くの人の話を聞かなかったのか、なぜ、柔軟な対応ができなかったのか、もっとメンバーに丁寧に接することができなかったのか。式典の準備と記念誌の刊行、運動方針策定というタイトなスケジュールのなか、とにかく前に進めて行くことを優先してしまい、何を大事にするべきかを見失っていたのではないかと改めて感じます。直前理事長という立場でありながら、気持ちの焦りを前面に出してしまい、メンバーの見本となる姿

を見せることができず、自分自身の未熟さを痛感した一年でもありました。ただ、青年会議所として最後の年に、厳しい役職のなかで今一度自分自身の弱点を見つめ直すことができたことは、これからの人生にとって非常に有意義な一年間であったと実感しております。また、創立60周年記念式典という節目の事業を担当できたということ、海部津島青年会議所の今後10年の運動の軸となる運動方針の策定に携われたことを非常に誇らしく思うと同時に、これから後続くメンバーが自信をもって活動していけるための礎を、どうにか創り上げることができたことに安堵しております。本年度策定した運動方針をもとに、海部津島青年会議所が地域と共に更なる飛躍を遂げることを切に願っています。

振り返ると、8年間という青年会議所活動のなかで、一、二を争うほど厳しい一年間であったのではないかと考えます。失敗もあり情けない姿をさらしてしまったこともありました。しかし、新しい知識や価値観を学び、言葉だけではない青年会議所の歴史の重みを知ることができました。良い面も悪い面も含めて、大きく成長できた一年であったと確信します。そのような価値ある一年とすることができたのも、多くの時間を共有してきた会議体メンバー、そして、委員会の枠を超えてご協力をしていただいた全てのメンバーのお力添えがあったからだと確信しております。

結びとなりますが、卒業最終年度に人間として大きな成長の機会を与えてくださった平野理事長に心から御礼申し上げ、所見とさせていただきます。

6. 収 支 決 算

収入の部				支出の部			
予 算		決 算		予 算		決 算	
事業費	400,000	事業費	398,052	(3)	400,000	(3)	398,052
合 計	400,000	合 計	398,052	合 計	400,000	合 計	398,052